

長野県

民俗の会通信

第307号

○松本中央講資料群について—上土町所有の三峯講資料—
 ○公会場の清掃活動……………市東 真一
 ○常念坊の徳利酒—篠原徹氏の講演に触発されて……………田澤 直人
 ○令和六年度総会の概要報告……………板橋 春夫

松本市中央講資料群について

—上土町所有の三峯講資料—

狼の護符を配布して

私の実家である「榊しづか」のある上土町には、古くから三峯神社が鎮座している。この三峯神社は、「ミツミネサマ」と呼称されて、毎年四月一九日に例大祭が執行されている。子どもころ、この三峯神社のお祭りにお菓子をもらっていた記憶がある。令和二（二〇二〇）年に、アマビエはんこを作って話題になったので、三峯神社の護符を製作し町内に配布してもいいかと町会長に打診したところ、町会長の大島さんと講元の平出さんから許可をいただき、例大祭の時に護符を配布した（写真1）。



写真1 自作のお札

市東 真一

その際、町内の鈴木さんから三峯神社と三峯講に関する資料があることを教えていただいた。その後、松本大学の数人の学生に古文書の確認と撮影を協力いただき、一覧にまとめることができた（写真2）。本稿では、上土町が所有している三峯神社とその三峯講である松本中央講に関する資料について報告する。

松本中央講の資料

松本中央講に関する資料は、当初は上土町の和菓子屋である東門磯村の横田氏が所蔵していた。その後、その後今まで信仰していた三峯神社の記録を町内に寄贈したという。

松本中央講の資料は全四六点あり、そのほとんどが講の記録である。その大部分は、神社の祭典や維持管理についての領収書などの記録が主に残されている。この領収書には、当時の物価や店舗などの名称も刻まれており、現在残っていない店舗なども知ることができる（表1）。

また松本の三峯神社の大正時代から平成中期までの記録が残されている。ただの代参

記録ではなく、代参に行った様子なども細かく記されている（写真3・4）。

このように、松本中央講の文書群は、民俗学だけではなく経済史などの視点から見ることが出来る。

御嶽信仰の中の三峯信仰

また、現在私が調査を行っている御嶽教松本唯一会の歴代の霊神の名簿の中に横田熊三氏の名前が存在する（写真5）。霊神号は、御嶽行者が死後か生前に神憑りの儀式である御座の場で授与される称号である。また、三峯神社の前身である観音院高雲寺は御嶽山の王滝口を開いた普寛霊神が得度した寺院とされる。このように、御嶽信仰と三峯神社は切っても切り離せない関係にある。

今後、町場の三峯神社の意味合い、また御嶽信仰との関係についても本資料は有効な資料群であると考えられる。

最後に本報告を執筆するにあたりご協力をいただいた上土町会の鈴木氏、資料セリを手伝っていただいた令和二（二〇二〇）年度の松本大学観光ホスピタリティの白戸ゼミの学生をはじめとする皆様に感謝の辞をもって本稿を終了する。

長野県民俗の会通信三〇七号

二〇二五年五月一日

会費年額 五、〇〇〇円

長野県民俗の会

振替 〇〇五二〇一三一三六五七

長野県民俗の会

E-mail : info@nagano-minzoku.chu.jp

URL : <http://nagano-minzoku.chu.jp/>